

千葉県八千代市

作山塚群 1号塚・2号塚

—駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

株式会社ケイユー
八千代市教育委員会

目 次

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

第1章 調査経過及び概要	第2節 2号塚(2T)……………8
第1節 調査に至る経緯……………1	第3節 1P土坑……………10
第2節 調査の概要……………1	第3章 成果と課題……………11
第3節 作山塚群の概要……………1	写真図版……………13
第2章 検出された遺構と遺物	報告書抄録
第1節 1号塚(1T)……………5	

挿 図 目 次

第1図 作山塚群と周辺の遺跡……………2	第6図 1号塚測量図・土層断面図……………6
第2図 明治時代の作山塚群周辺……………2	第7図 1号塚完掘状況図・エレベーション図…7
第3図 作山塚群における塚の分布……………3	第8図 2号塚出土遺物……………8
第4図 作山遺跡e地点全体図……………3	第9図 2号塚測量図・土層断面図……………9
第5図 作山塚群本調査遺構配置図……………5	第10図 1P土坑実測図・断面図……………10

写真図版目次

図版1 1号塚……………14	図版3 2号塚, 1P土坑など……………16
図版2 1号塚, 2号塚……………15	

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯

平成20年4月及び同年7月、土地所有者の玉井均氏から小池字作山の資材置場建設事業に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡である作山遺跡の範囲内であり、現況山林で地表面観察はできなかったが、作山塚群の一部が所在していることを確認できた。このため、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は、「周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であること、「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し、合計6,966.19m²について取扱いに係る協議を行った。その結果、玉井氏は工事を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同年10月、玉井氏から土木工事の届が提出され、市教委は10月23日に確認調査を開始した。

確認調査 確認調査は、平成20年度の不特定遺跡調査事業として県費の補助を受けて行った。作山遺跡e地点として対象面積6,966.19m²のうち860m²を調査した。その結果、発掘調査による新たな遺構の検出は無く、対象範囲内に作山塚群の塚3基が所在することと、弥生土器、奈良・平安時代土師器の出土を確認した（第4図）。

本調査 確認調査の結果、塚3基138m²について協議範囲とした。本調査実施に向けて協議を重ねた結果、玉井氏は塚1基を開発事業範囲から外したため、協議対象は、塚2基125m²となった。平成21年11月、事業は株式会社ケイユー（以下「事業者」という。）に引き継がれ、市教委は、平成21年11月19日付けで調査の見積りを事業者に提示した。事業者から同年12月25日付けで八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出され、また法93条の届出も同時に提出された。市は平成22年1月4日付けでこれを受託した。同年1月8日付けで市・市教委・事業者の三者間で埋蔵文化財の保存措置に関する協定を締結した。年度末に近い時期であるため、本整理については、翌年度に実施することとし、同日付けで市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。同年1月19日に市教委が本調査を開始した。

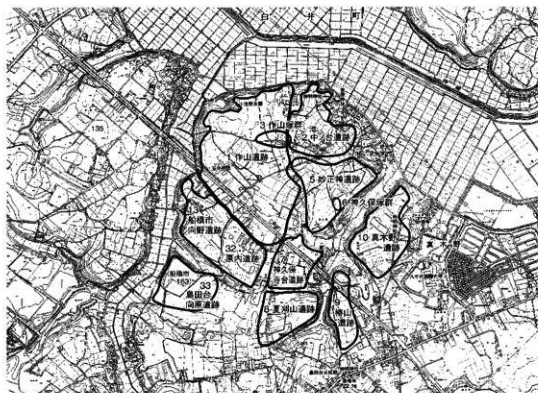
第2節 調査の概要

本調査は、塚2基125m²を対象として行った。西側にある塚を1号塚、東側を2号塚とし、それぞれの現況地形測量を行った後、1号塚から発掘調査を開始した。1号塚はごく低い小規模な塚であるため、人力で掘削しつつ、適宜写真撮影と図面作成、光波測定器によって記録をとりながら完掘をめざした。2号塚については、塚上の立ち木が調査の支障となるため、伐採を事業者に依頼した。伐採後、重機によってセクションベルトを残して封土を除去、適宜写真撮影と図面作成、光波測定器によって記録をとりながら完掘をめざした。

調査経過は、1月19日～20日機材搬入、環境整備、調査前状況写真撮影。22日～25日確認調査トレンチの再掘削。22日～27日基準点測量、杭打ち（委託作業）。25日～26日地形測量。25日～2月15日1号塚の調査。2月9日～10日重機による2号塚掘削。9日～26日2号塚の調査。26日機材撤収で調査を終了した。

第3節 作山塚群の概要

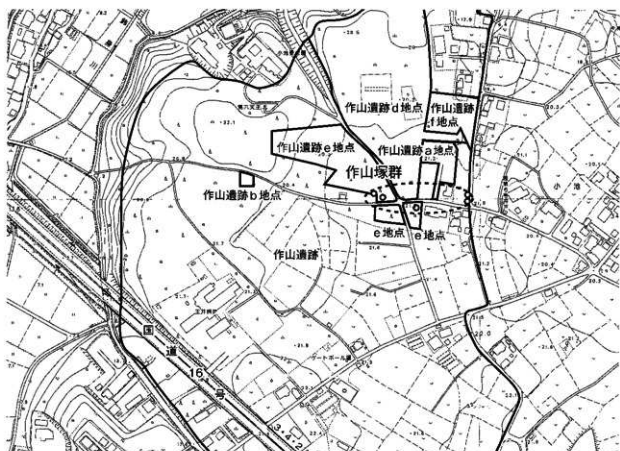
遺跡の立地 作山塚群は、市域の北部、小池地区にある。神崎川を北に臨む台地上平坦面、標高21m前後に立地する。ここには東西方向に走り東は佐倉に至る旧道があり、それに沿うように塚5基が点在す



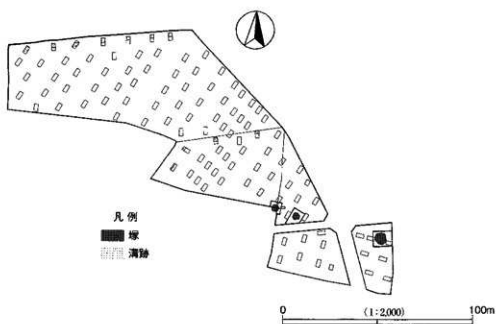
第1図 作山塚群と周辺の遺跡 (1:20,000)



第2図 明治時代の作山塚群周辺 (明治15年迅速測図に加筆, 1:20,000)



第3図 作山塚群における塚の分布 (1:5,000)



第4図 作山遺跡e地点全体図

る。1号塚と2号塚との間には、その旧道と南北方向に走る道との交差点があり、その角には大正2(1913)年造立の道標を兼ねた月待塔(二十三夜大月天王)の角柱型石塔が所在する(第5図、図版3(8))。銘文に東は小池・佐倉、西は車方・神保新田、南は嶋田新田・船橋、北は小野田・白井と彫られている(八千代市郷土歴史研究会2001年、八千代市史編さん委員会2006年)。

なお作山塚群に重複して作山遺跡が所在している。

これまでの調査 作山塚群は、昭和45年～47年にかけて実施された、千葉県立八千代高等学校史学会による遺跡分布調査のなかで発見されたい。この分布調査の成果は、昭和47年に八千代市教育委員会から「八千代市遺跡分布調査概要」として刊行された。これに掲載された「小池遺跡、塚2基」が作山塚群に相当すると思われる。これを受けて昭和53年刊行の「八千代市の歴史」では、「小池遺跡、塚2基(江戸時代)」とされている。昭和58年刊行の八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査の報告書「八千代の遺跡」で、遺跡名の変更が行われ「遺跡№3作山塚群、中世塚2基」と報告された。この2基は、東端に並ぶように所在する2基であることがわかる。平成15年の作山遺跡の発掘調査報告書では、4基と基数のみ掲載されている。今回少なくとも5基あることを確認した。これまでは所在調査のみで、発掘調査は今回が初めてである

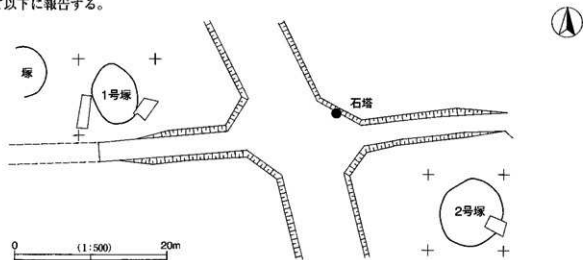
周辺の遺跡 小池地区では、作山塚群に重複する作山遺跡で発掘調査が行われている。塚群に近いa地点では、遺構として古代の方形周溝状遺構1基、中世の火葬墓・土坑墓計25基、中世の溝跡1条を検出し、遺物は、弥生土器、中世白磁・青磁・銭貨、板破片が出土した(市教委2003年)。南側を溝で囲われた15世紀後半の墓域と考察された。これと塚群との関連に興味を持たれた。b地点は塚群の西方に当たったが、遺構・遺物とも検出されなかった(市教委2007年)。c地点は、遺跡の南端で、近・現代の溝跡1条と奈良・平安時代の土師器・須恵器小片少量が出土した(市教委2009年)。塚群の北側一帯に当たったd地点の確認調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡14軒、古墳時代前期・後期・奈良・平安時代の竪穴住居跡各1軒、中世～戦国時代の土坑3基が検出され、縄文土器(中期)、弥生土器(後期)、古墳～奈良・平安時代土師器、中近世陶磁器などが出土した(市教委2010年)。a地点北方のf地点では、遺構は検出されず、古墳時代土師器、中近世陶磁器が出土した。

小池地区の南に隣接する神久保地区には妙正神遺跡がある。平成11年度に確認調査が行われ、遺構は弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡2軒・方形周溝状遺構2基が検出され、遺物は縄文土器(中期)、弥生土器(後期終末)などが出土した。また、神久保塚群が重複しており、中近世の方形塚5基の存在を確認した。

中・近世の遺跡が分布する小池・神久保地区にあって、作山塚群はその象徴的存在と言えるものであり、今回の調査には期待が持たれた。

第2章 検出された遺構と遺物

今回調査対象としたのは、塚2基である。西側の塚を1号塚、東側を2号塚とした。それぞれについて以下に報告する。



第5図 作山塚群本調査遺構配置図 (1:500)

第1節 1号塚 (1T) (第6図～第7図)

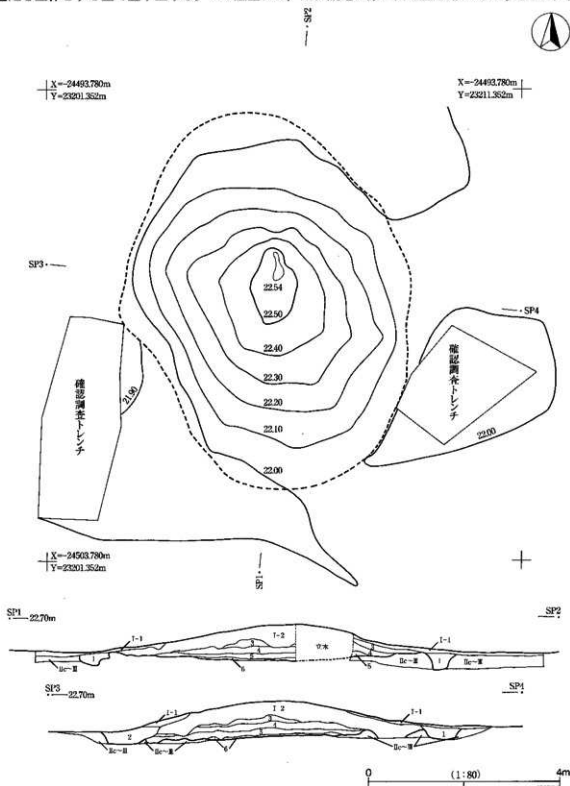
現況観察 南北約8m、東西約6m、高さ約60cmの低い楕円形の塚と認識された。周囲は竹林であり、塚上にも竹が生えていた。**現況測量** 最高点の標高22.551m、裾部標高21.868～22.059mで平均21.975m、比高0.576mであった。**調査方法** 十字形のセクションベルトを設定し、土層観察面を南北方向SP1～SP2面と東西方向SP3～SP4面とした。これを元に塚を4区に分け、北西区域を1区とし、逆時計回りに2～4区とした。形態 南北方向が長い楕円形である。直径 周溝の内側で南北6.8m、東西4.0m、外側で南北8.6m、東西7.6mである。封土の高さ 旧表土の上面から、最厚部で77.1cm、周溝の溝底から1.17mである。周溝 全体的にプランは不明瞭であったが、塚の南東裾部(3区)で明瞭な溝跡を検出したため、掘削しながら探し、最終的には全周した。幅0.52m～1.36m、深さ12cm～42cmと不定で、3区にはビット状に深くなる部分があった。覆土は、緻密度の低い褐色土である。塚封土の一部の供給源であったと推測するが、早い段階で埋まってしまったようである。

封土土層 暗褐色土が主体である。上半は緻密度の低い現在の表土で、厚いところは40cmある。下半は緻密度の高い土で、水平に堆積しており、自然堆積のように見える。しかしこれらも塚の構築のために盛られた土と捉えるべきであろう。I-1層(表土) 7.5YR 2/2 (黒褐色土)。緻密度1～6で脆弱。I-2層(表土) 7.5YR 3/3 (暗褐色土)。緻密度5～9。IIc～III層(漸移層～ソフトローム層) 7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)。緻密度18。1(周溝覆土) 7.5YR 4/3 (褐色土)。緻密度2～9。2(周溝覆土) 7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)・3/3 (暗褐色土)が交互に混じる。緻密度16～19。3(封土) 7.5YR 3/3 (暗褐色土)。緻密度20。4(封土) 7.5YR 3/3 (暗褐色土)、褐色土斑状。緻密度18。径2mm黄色粒子含む。5(窪み状遺構覆土) 7.5YR 3/2 (黒褐色土)、褐色土斑状。緻密度20～23。6(窪み状遺構覆土) 7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)。緻密度19。ローム泥じり。

封土下の窪み状遺構 封土下の漸移層～ソフトローム層は、塚の中央部で窪んでいるように見え、そこに覆土として黒褐色土及び褐色土が堆積しているように見えた。窪みの規模は、南北4.48m、東西は最大で4.12mの不整形で、深さは最深部で12cmである。塚はこの窪みを埋めて構築されたということに

なり、塚構築の意義に関わる遺構と考えられるが、出土遺物が無く、どのような性格の遺構が明らかにならなかった。

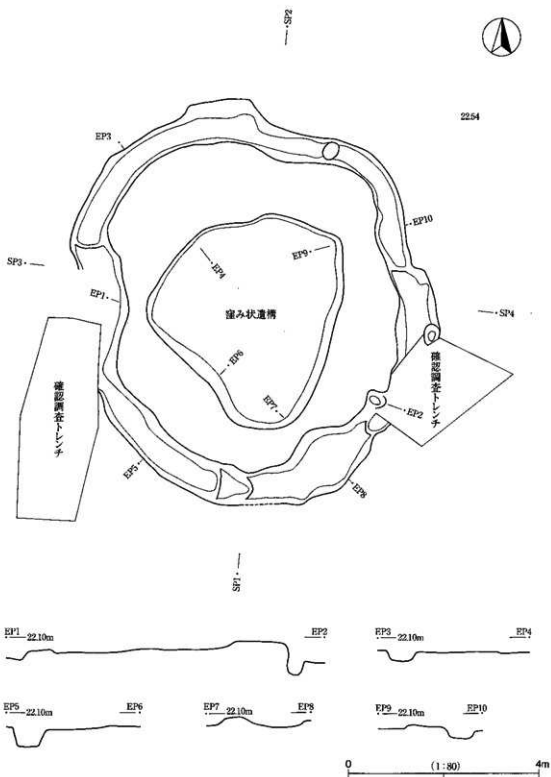
塚の構築 塚の構築方法について、以下のとおり推定する。まず一帯を漸移層～ソフトローム層まで削り、整地する。中央に深さ10cmくらいの窪みを作る。黒褐色土を主体とする土で埋める。さらに暗褐色土を主体とする土で盛り上げる。この盛土には、主に整地の際に出た土を用いたと考えられ、窪み



第6図 1号塚測量図・土層断面図

の上50～60cmまでは水平に丁寧につき固めた。その上にさらに厚さ40cmほど盛り土した。最後に塚の周囲を周溝状に掘り、その上で覆って終了した。最後に覆った土は、早い段階で流れて周溝状の溝を埋めてしまったと考える。

出土遺物 小碟1点、表上からの出土である。径19.5mm×10.5mm厚さ4.0mmの片岩の破片である。



第7図 1号塚完掘状況図・エレベーション図

第2節 2号塚(2T)(第9図)

現況観察 直径約8~9m、高さ約1mの円形の塚と認識された。周囲は山林であり、塚上にもスギなどの樹木が生えていた。**現況測量** 最高点の標高22.963m、裾部標高21.749~21.990mで平均21.839m、比高1.124mであった。**調査方法** 十字形のセクションベルトを設定し、土層観察面を南北方向SP1-SP2面と東西方向SP3-SP4面とした。**形態** 南北方向が若干長い円形である。直径 南北8.88m、東西8.16mである。**封土の高さ** 旧表土の上面から、最厚部で約1.06mである。

封土土層 木の根のためSP3-SP4面の中央などの土層観察は諦めざるを得なかった。黒褐色~暗褐色土が主体である。表土の1・2層は緻密度が低い脆弱な土である。厚いところは50~60cmあり、封土だった土が崩れて麓に溜まったのではないかと推察される。3層以下は次第に緻密度を増す。3層~6層は、黒褐色~暗褐色土と暗褐色~褐色土が交互に積まれたように見える。3層・4層・9層は、縁辺部が階段状になっており、塚の構築法を示唆するものであろうか。10層の緻密な黒褐色土の下に腐植土層(IIa層)があり、その上面の標高は21.80m前後である。封土にはIIa層を認めたが、塚の範囲外では途切れている。IIb層は不明確であった。

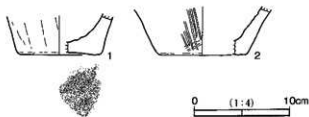
I-1層(塚部現表土)7.5YR3/2(黒褐色土)。緻密度0で脆弱。1:7.5YR3/2~3/3(黒褐色土~暗褐色土)、褐色土にじむ。緻密度6~10、1'部分は13~17。2:7.5YR3/2~3/3(黒褐色土~暗褐色土)。緻密度15~17。3:7.5YR4/3・4/4(褐色土)斑状・3/3(暗褐色土)。緻密度17~23。4:7.5YR3/2~3/3(黒褐色土~暗褐色土)。緻密度15~17。5:7.5YR4/3・4/4(褐色土)斑状・3/3(暗褐色土)。緻密度20。6:7.5YR3/2(黒褐色土)。緻密度5~11。7:7.5YR3/2・3/3(黒褐色土・暗褐色土)。緻密度6~13。8:7.5YR3/2(黒褐色土)。緻密度24、硬化。9:7.5YR3/2(黒褐色土)・4/3(褐色土)斑状。緻密度19~21。

封土以外の土層 I-2層(現表土)7.5YR2/2(黒褐色土)。緻密度5~7。II-1層7.5YR4/3・4/4(褐色土)。緻密度15。IIa層(腐植土層)7.5YR3/2(黒褐色土)、褐色土斑状。緻密度20~23。IIb層(新期テフラ層)7.5YR4/3(褐色土)。緻密度15。IIc層(漸移層)7.5YR4/3・4/4(褐色土)・3/3(暗褐色土)。緻密度19~20。III層(ソフトローム層)7.5YR4/3・4/4(褐色土)。緻密度20。可塑性強。IV~V層(ハードローム層)7.5YR4/4(褐色土)。かたさ大。緻密度26。可塑性強。

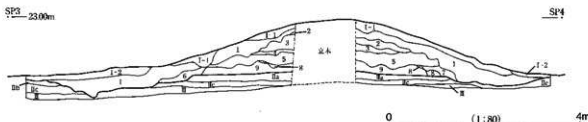
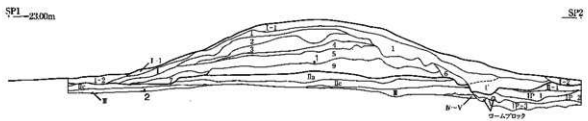
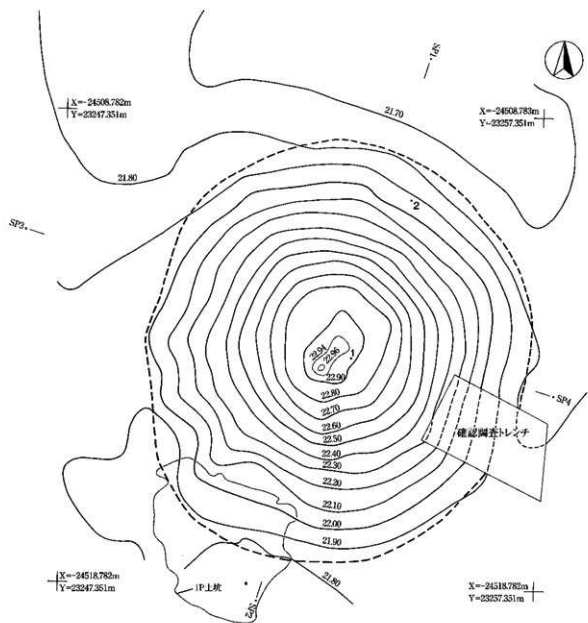
塚の構築 まず塚の範囲を腐植土層の上面で整地し、その周囲をIII層(ソフトローム層)付近まで掘って封土の供給源とした。黒褐色土と褐色土を交互に積み、周辺を突き固めながら盛り上げた。

封土下の遺構 南西麓に土坑が検出されたが、2号塚とは関連の無いものと判断した。

出土遺物(第8図) 土師器片3点(底部片2点、胴部小片1点)が出土した。底部2点を図示した。ともに甕である。奈良~平安時代の土師器と考えられ、塚の時代とは関わりない混入品と判断した。1は、塚中央5層下部出土。復元底径8.8cm、橙色・橙褐色、胎土に粗砂・長石・赤褐色紋子を含む。調整は、器表面が荒れているためわかりにくい。外面縦方向ヘラ削り、底外面ヘラ削り、内面ナデである。2は、塚裾部出土。断面上ではIII層であるが、実際は封土7層中であろう。復元底径9.4cm、外面橙褐色・暗赤褐色、内面淡橙褐色、胎土に粗砂・赤褐色粒を含む。調整は、外面縦方向ミガキ、底外面ミガキ、内面は荒れているためわかりにくい。ヘラナデであろう。ミガキなどから常規型の甕と判断した。



第8図 2号塚出土遺物



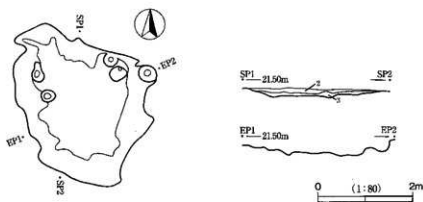
0 (1:80) 4m

第9図 2号塚測量図・土層断面図

第3節 1P土坑 (第9図～第10図)

位置 2号塚の南西麓の封土下、平面的には塚の内外に亘る範囲に存在する。**平面形態** 不整形。**底面形態** 不整形で凹凸があり、ピット状になるところが5箇所認められた。**規模** 北西-南東方向3.72m×北東-南西方向2.90m、深さ10～19cm。**覆土** 1：2号塚のSP1-SP2面で検出した。7.5YR3/3 (暗褐色土)。褐色土斑状に含む。2：7.5YR3/3 (暗褐色土)。褐色土斑状に含む。径2～5ミリ黄色スコリア多量含む。3：7.5YR4/4・4/3 (褐色土)。径1～2cmロームブロック・黄色スコリアを多量含む。**出土遺物** 土師器の小・細片3点、図は省略した。

考察 1号塚における窪み状遺構とは異なり、塚の範囲外に及んでいる。土師器の存在から奈良・平安時代の土坑とするが、あるいは風倒木痕の類かもしれない。塚の構築とは直接関係の無いもので、偶然重複したものとする。



第10図 1P土坑実測図・断面図

写真図版



(1) 1号塚調査前状況



(2) 1号塚調査状況-1



(3) 1号塚調査状況-2



(4) 1号塚土層断面SP1側及び3区の状況



(5) 1号塚土層断面SP2側及び4区の状況



(6) 1号塚土層断面SP3側及び2区の状況



(7) 1号塚土層断面SP4側及び3区の状況



(8) 1号塚完掘状況-全景



(1) 1号塚完掘状況-3区



(2) 1号塚完掘状況-2区



(3) 1号塚完掘状況-手前1区, 奥2区



(4) 1号塚完掘状況-左3区, 右4区



(5) 2号塚調査前状況



(6) 2号塚伐採後の状況



(7) 2号塚重機による掘削



(8) 2号塚土層断面SP1~SP2



(1) 2号塚土層断面SP2側



(2) 2号塚土層断面SP3～SP4



(3) 2号塚土層断面SP3側



(4) 2号塚完掘状況



(5) 1P土坑土層断面



(6) 1P土坑完掘状況



(7) 作山塚群西端の塚



(8) 月待塔(二十三夜大月天王, 兼道標)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよし さくやまつかくん 1ごうつか・2ごうつか							
書 名	千葉県八千代市作山塚群 1号塚・2号塚							
副 書 名	駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編 著 者 名	常松成人							
編 纂 期 間	八千代市教育委員会							
所 在 地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 ☎047(483)1151代表							
発行年月日	2011年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ちばけんやちよし 作山塚群	ちばけんやちよし 八千代市小池字作山404-1. 403-3	12221	3	35度 46分 44秒	140度 5分 27秒	20100119 ～ 20100226	125	駐車場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特記事項	
作山塚群	塚	近世 奈良・平安時代	塚2基、 竪み状遺構1基 土坑1基		奈良・平安時代土師器			
要 約	市域北部の塚群の一部について発掘調査を実施し、その様相が明らかとなった。伴出遺物が乏しく時期の決定が困難ではあるが、塚の上の盛り方等を確認できた。							

千葉県八千代市 作山塚群 1号塚・2号塚

—駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日	平成23年3月31日
編集	八千代市教育委員会 教育総務課 〒276-0045 八千代市大和田138-2 TEL 047-483-1151
発行	株式会社ケイユー
印刷	株式会社 マネジメント オオナカ